

福岡県における教職員数と年齢構成の変遷

山下, 顕史
九州大学大学院人間環境学府 : 修士課程

<https://doi.org/10.15017/14263>

出版情報 : 教育経営学研究紀要. 11, pp.53-57, 2008-12. The Laboratory of Educational Administration, Educational Law, Graduate School of Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

福岡県における教職員数と年齢構成の変遷

山下 顕史

はじめに

本稿では、福岡県下の県費負担教職員数、教員の年齢構成の変遷について報告を行うこととする。福岡県校長会による平成14年度から19年度にわたる調査の中から、「県費負担教職員数」、「県費基準外教職員数」、「県費教員（教諭）年齢構成」の項目を抽出し、地区・年度別に集計を行った。

1. 県費負担教職員数の変遷

表1に地区、年度別の県費負担教職員数を示す。

地区によって若干の相違はあるものの、平成17年度から平成19年度にかけて教諭数の増加が看取できる。

表1 県費負担教職員数（地区・年度別）

地区	年度	総数	県費教職員数						
			内 訳						
			校長	教頭	教諭	定数内講師	養護教諭	事務職員	栄養職員
福岡市	14	3303	144	146	2553	128	145	144	43
	15	3362	145	146	2578	150	145	156	42
	16	3382	144	144	2606	152	148	147	41
	17	3358	144	147	2548	168	154	152	45
	18	3673	144	267	2764	138	157	154	49
	19	3584	146	153	2834	89	159	153	50
福岡地区	14	2804	116	118	2132	148	120	121	49
	15	2847	116	118	2157	166	115	124	51
	16	3047	116	119	2374	145	119	122	52
	17	2677	116	121	2045	98	120	123	54
	18	2890	118	177	2201	92	121	126	55
	19	2968	118	123	2328	96	124	127	52
北筑後地区	14	1621	81	82	1174	88	83	86	27
	15	1680	81	83	1197	109	82	99	29
	16	1979	81	80	1505	105	82	86	40
	17	1689	89	91	1159	133	89	95	33
	18	1774	90	93	1250	110	102	95	34
	19	1803	89	92	1292	111	92	94	33
南筑後地区	14	1836	120	122	1276	62	119	119	18
	15	1787	119	120	1219	73	119	118	19
	16	1760	118	118	1198	68	118	118	22
	17	1490	110	110	956	76	108	110	20
	18	1666	108	108	1127	91	106	106	20
	19	1551	103	103	1034	84	102	103	22
筑豊地区 (南筑豊)	14	1286	71	71	915	65	70	69	25
	15	1267	71	71	895	67	69	70	24
	16	1238	70	71	857	78	68	70	24
	17	1150	70	72	779	67	69	70	23
	18	1205	68	69	863	49	66	69	21
	19	1152	68	67	817	46	66	68	20

北九州 地区 (北筑豊)	14	905	52	53	631	47	52	53	17
	15	920	52	54	640	56	51	51	16
	16	880	52	52	619	38	52	51	16
	17	861	52	53	599	36	52	52	17
	18	1004	62	61	706	36	59	60	20
	19	1028	62	62	718	44	60	62	20
京築 地区	14	822	56	56	544	43	56	56	11
	15	825	56	56	546	50	52	54	11
	16	793	54	54	512	53	54	54	12
	17	747	52	52	489	36	53	53	12
	18	789	52	53	538	29	53	54	10
	19	788	51	48	548	27	49	52	13
北九州市	14	2669	134	134	1957	138	136	138	32
	15	2679	133	133	1979	126	135	135	38
	16	2620	132	132	1889	154	136	134	43
	17	2548	132	132	1774	193	135	135	47
	18	2677	132	133	1911	192	131	131	47
	19	2609	130	128	1871	172	132	132	44

2. 県費基準教職員数の変遷

表2に、県費基準外教職員数の地区・年度別集計を示す。

地域によって若干の差異があるものの、平成16・17年度を境に県費基準外教職員数の減少が見られる。また、情報教育加配教職員に関して、北九州市、京築地区においては若干名の導入が認められるが、他地域においては導入されている様子はない。今後の情報教育についての人的資源の配置等の環境整備について、若干の課題を残しているように思われる。

表2 県費基準外教職員数（地区・年度別）

地区	年度	総計	県費基準外教職員数						
			内 訳						
			国庫少人数指導	新採教員指導	情報教育加配	日本語指導加配	児童生徒支援加配	県単少人数指導	その他
福岡市	14	176	88	19	0	4	27	38	-
	15	226	131	30	0	3	26	22	14
	16	260	176	29	0	4	25	17	9
	17	312	229	27	0	4	28	9	15
	18	291	191	29	0	3	27	7	34
	19	242	160	24	0	2	28	-	28
福岡地区	14	207	128	14	0	2	30	33	-
	15	240	133	23	0	1	25	33	25
	16	220	126	21	0	2	25	28	18
	17	210	125	20	0	2	22	19	22
	18	193	117	16	0	0	22	7	31
	19	192	117	15	0	0	27	-	33

北筑後 地区	14	125	70	7	0	1	30	17	-
	15	133	72	10	0	2	28	19	2
	16	133	76	9	0	2	27	13	6
	17	137	76	8	0	3	27	13	10
	18	135	84	11	0	4	27	1	8
	19	133	81	10	0	5	26	-	11
南筑後 地区	14	92	56	5	0	0	11	20	-
	15	112	65	5	0	0	10	19	13
	16	107	64	4	0	0	11	13	15
	17	102	55	3	0	0	9	14	21
	18	102	62	4	0	0	10	10	16
	19	104	64	2	0	1	10	-	27
筑豊地区 (南筑豊)	14	181	68	9	0	1	47	56	-
	15	198	83	6	0	1	45	44	19
	16	197	90	8	0	1	46	32	20
	17	193	90	4	0	0	48	16	35
	18	157	82	1	0	0	48	5	21
	19	142	88	3	0	0	46	-	5
北九州 地区 (北筑豊)	14	81	45	4	0	0	22	10	-
	15	103	54	2	0	0	26	14	7
	16	99	58	2	0	0	26	7	6
	17	97	58	1	0	0	26	4	8
	18	129	62	1	0	0	33	2	31
	19	96	65	1	0	2	25	-	3
京築地区	14	81	35	5	0	0	32	9	-
	15	89	45	2	0	0	27	9	6
	16	92	47	5	0	0	27	6	7
	17	80	44	4	0	0	25	4	3
	18	80	37	5	0	0	26	3	9
	19	264	179	14	1	3	41	-	26
北九州市	14	197	98	12	1	4	39	43	-
	15	225	123	21	1	2	35	30	13
	16	230	152	11	0	1	35	15	16
	17	274	184	16	2	2	37	5	28
	18	265	187	14	2	2	38	0	22
	19	264	179	14	1	3	41	-	26

3. 教員（教諭）年齢構成の変遷

各地域における教員（教諭）年齢構成の変遷について、表3から表10に示す。

40歳代の女性教諭が最も多く、男女ともに20歳代の教員数が最も少ない。今後10年から20年後に定年に伴う、教員の大量退職が予想される。現在の20・30歳代の教員をミドルリーダー、将来のリーダー候補として資質向上を行い、大量退職とそれに伴う教員の大量採用に備える必要がある。なお、ここで扱っている年齢構成のデータであるが、第1節にて扱った県費負担教職員数のデータと若干の差異が生じており、注意が必要である。しかしながら、教諭の年齢構成の概要をとらえることは可能である。

表3 福岡市教員（教諭）年齢構成（年度別）

年度	県費教員(教諭)年齢構成							
	20代		30代		40代		50代	
	男	女	男	女	男	女	男	女
16	94	161	244	259	467	849	129	444
17	100	207	234	250	457	763	167	500
18	112	263	202	244	441	733	203	594
19	119	305	209	252	434	680	253	678

表4 福岡地区教員（教諭）年齢構成（年度別）

年度	県費教員(教諭)年齢構成							
	20代		30代		40代		50代	
	男	女	男	女	男	女	男	女
16	51	138	227	415	374	659	71	205
17	77	172	228	379	369	619	98	260
18	90	184	209	365	358	665	139	311
19	97	204	191	337	338	630	159	352

表5 北筑後地区教員（教諭）年齢構成（年度別）

年度	県費教員(教諭)年齢構成							
	20代		30代		40代		50代	
	男	女	男	女	男	女	男	女
16	22	65	93	150	220	455	66	125
17	26	84	94	147	237	459	77	178
18	35	101	87	147	216	442	106	198
19	28	99	90	144	171	410	113	242

表6 南筑後地区教員（教諭）年齢構成（年度別）

年度	県費教員(教諭)年齢構成							
	20代		30代		40代		50代	
	男	女	男	女	男	女	男	女
16	14	38	90	186	290	461	35	143
17	14	43	68	134	242	406	48	139
18	10	49	67	111	241	414	68	173
19	11	47	58	100	213	384	94	202

表7 筑豊（南筑豊）地区教員（教諭）年齢構成（年度別）

年度	県費教員(教諭)年齢構成							
	20代		30代		40代		50代	
	男	女	男	女	男	女	男	女
16	22	36	116	176	175	323	23	45
17	28	32	102	159	183	332	48	52
18	24	27	88	143	190	347	44	73
19	21	30	77	132	187	337	56	94

表 8 北九州（北筑豊）地区教員（教諭）年齢構成（年度別）

年度	県費教員(教諭)年齢構成							
	20代		30代		40代		50代	
	男	女	男	女	男	女	男	女
16	4	20	83	116	135	237	29	38
17	5	16	75	107	143	240	41	56
18	5	13	67	110	173	273	58	73
19	3	13	58	88	161	267	70	106

表 9 京築地区教員（教諭）年齢構成（年度別）

年度	県費教員(教諭)年齢構成							
	20代		30代		40代		50代	
	男	女	男	女	男	女	男	女
16	6	24	43	75	96	249	17	66
17	11	29	43	69	93	218	23	80
18	15	29	36	74	94	218	31	97
19	14	31	37	67	85	202	39	113

表 10 北九州市教員（教諭）年齢構成（年度別）

年度	県費教員(教諭)年齢構成							
	20代		30代		40代		50代	
	男	女	男	女	男	女	男	女
16	34	57	107	213	354	880	87	281
17	37	74	100	184	306	742	108	315
18	41	87	104	189	280	749	135	391
19	45	104	106	172	257	666	161	465

おわりに

以上、福岡県における教職員数と年齢構成の変遷を見てきた。

第3節でも触れたが、今後10年から20年にかけて、定年退職に伴う教員の大量退職が予想される。さらにそれに伴う、教員の大量採用も予想される。そのような状況の中で、現在の40歳代、50歳代の経験豊富な教員の大量退職とともに、新卒で採用される若手教員数の増加が起こるものと考えられ、これらのベテラン教員が、自らの生活の中で培ってきた知識や技能を、次の世代に如何にして伝えていくのか、また、学校組織内に教職経験の未熟な若手教員が増えることにより、経験不足から起こる何らかの支障が生ずることも十分に考えられる。このことから、校長のリーダーシップの重要性、教頭・教務主任等をミドルリーダーとして位置づけ、資質向上を行うことの重要性は増しているものと考えられるのである。